

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科		
科目名称	臨床栄養学実習Ⅲ						授業形態		実習	
科目コード	303800	単位数	1単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	竹元 明子								ICT活 用	○
授業概要	この実習は、臨床栄養学で学んだ疾病に関して、実際の症例検討や栄養ケアプラン、栄養補給法などについて演習や実習を行い、基本的な技能、実践力を身につけると共に、社会で活躍できる管理栄養士として臨床現場で展開する栄養ケアマネジメント（NCM）を実践するための応用実習である。 基礎知識を基に、模擬患者に対するロールプレイングなどを取り入れ、実践の場で活躍できる高度な技術力を身につけることを目的とする。									
関連する科目	履修前：臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ からだと疾病Ⅰ・Ⅱ 基礎栄養学 調理学 食品衛生学 履修後：臨床栄養学実習Ⅲ。文献等の検索。実習、課題のレポート作成。									
授業の進め方 と方法	グループワーク形式で行う。テーマによりロールプレイ、プレゼンテーションを行う。各種計測による栄養評価・判定方法や模擬患者に対する、ベットサイド・外来での栄養教育の実践を行う。解説はパワーポイントで行う。装具をつけての高齢者・車いす体験、人体モデルでの経腸栄養剤の投与方法、静脈栄養ポンプを使用しての静脈栄養剤の投与方法により栄養補給方法を学ぶ。臨床栄養学を学んだ集大成として、各班ごと・個人ごとにテーマを選び対象症例の栄養ケア・マネジメントを行う。各班毎の発表は、ポスター・ＯＨＰを使用する。単元毎にレポート提出。14回・15回分は症例発表の後、グループ毎に冊子を作成し保存する。個人分はレポートとして提出する。									
授業計画 【第1回】	人体構造の再確認 身体評価 身体計測に必要な器具、機器の理解、評価について学ぶ。									
授業計画 【第2回】	高齢者の栄養ケアマネジメント ① 摂食嚥下障害 自助具の使い方 嚥下訓練食の実習により 介護食の実際について理解する。 体験実習により傷病者・要介護者への対応方法、コミュニケーションの取り方等、実践的能力を習得する。									
授業計画 【第3回】	高齢者の栄養ケアマネジメント ① 摂食嚥下障害と高齢者体験 装具・車椅子を用いて高齢者体験を行う。 体験実習により傷病者・要介護者への対応方法、コミュニケーションの取り方等、実践的能力を習得する。									
授業計画 【第4回】	・摂食・嚥下障害発表 ・栄養相談とその実際 摂食・嚥下障害について班ごとに発表。 ・栄養相談とその実際について学ぶ。 栄養相談の目的、実施方法について理解する。									
授業計画 【第5回】	医療施設の栄養管理 医療施設について全体把握する。 栄養ケアマネジメントの流れについて理解する。									
授業計画 【第6回】	模擬患者に対する栄養教育 1ー① ベットサイド指導 ベットサイド指導の方法、必要性について学ぶ。									
授業計画 【第7回】	模擬患者に対する栄養教育 1ー② ベットサイドでの実地指導 コミュニケーションの取り方等、実践的能力を習得する									
授業計画 【第8回】	模擬患者に対する栄養教育 1ー③ 実地指導に対する評価と今後の課題 指導をビデオで確認し、評価・考察を行う。									
授業計画 【第9回】	模擬患者に対する栄養教育 2ー① 指導室での対面指導訓練 栄養教育のテクニック、カウンセリング技法について学ぶ。									
授業計画 【第10回】	模擬患者に対する栄養教育 2ー② 指導室での実地対面指導 コミュニケーションの取り方等、実践的能力を習得する。									

管理栄養学科

Q

Q

この実習は、臨床栄養学で学んだ疾病に関して、実際の症例検討や栄養ケアプラン、栄養補給法などについて演習や実習を行い、基本的な技能、実践力を身につけると共に、社会で活躍できる管理栄養士として臨床現場で展開する栄養ケアマネジメント（NCM）を実現するための応用実習である。

基礎知識を基に、模擬患者に対するロールプレイングなどを取り入れ、実践の場で活躍できる高度な技術力を身につけることを目的とする。

履修前：臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ からだと疾病Ⅰ・Ⅱ 基礎栄養学 調理学 食品衛生学 履修後：臨床栄養学実習Ⅲ。文献等の検索。実習、課題のレポート作成。

グループワーク形式で行う。テーマによりロールプレイ、プレゼンテーションを行う。各種計測による栄養評価・判定方法や模擬患者に対する、ベントサイド・外来での栄養教育の実践を行う。解説はパワーポイントで行う。器具をつけての高齢者・車いす体験、人体モデルでの経腸栄養剤の投与方法、静脈栄養ポンプを使用しての静脈栄養剤の投与方法により栄養補給方法を学ぶ。臨床栄養学を学んだ集大成として、各班ごと・個人ごとにテーマを選び対象症例の栄養ケア・マネジメントを行う。各班毎の発表は、ポスター・OHPを使用する。单元毎にレポート提出。14回・15回分は症例発表の後、グループ毎に冊子を作成し保存する。個人分はレポートとして提出する。

身体計測に必要な器具、機器の理解、評価について学ぶ。

高齢者の栄養ケアマネジメント ① 摂食嚥下障害
 自助具の使い方 嚥下訓練食の実習により 介護食の実際について理解する。
 体験実習により傷病者・要介護者への対応方法、コミュニケーションの取り方等、実践的能力を習得する。

高齢者の栄養ケアマネジメント ① 摂食嚥下障害と高齢者体験
 装具・車椅子を用いて高齢者体験を行う。
 体験実習により傷病者・要介護者への対応方法、コミュニケーションの取り方等、実践的能力を習得する。

- ・ 摂食・嚥下障害発表 ・ 栄養相談とその実際
摂食・嚥下障害について班ごとに発表。
- ・ 栄養相談とその実際について学ぶ。
栄養相談の目的 実施方法について理解

医療施設の栄養管理
医療施設について全体把握する。
栄養ケアマネジメントの流れについて理解する。

模倣患者に対する栄養教育 1-① ベットサイド指導
ベットサイド指導の方法、必要性について学ぶ。

模擬患者に対する栄養教育 1-② ベットサイドでの実地指導
コミュニケーションの取り方等、実践的能力を習得する

模擬患者に対する栄養教育 1-③ 実地指導に対する評価と今後の課題
指導をビデオで確認し、評価・考察を行う。

模擬患者に対する栄養教育 2-① 指導室での対面指導訓練
栄養教育のテクニック、カウンセリング技法について学ぶ。

模擬患者に対する栄養教育 2-② 指導室での実地対面指導
コミュニケーションの取り方等、実践的能力を習得する。

授業計画 【第11回】	模擬患者に対する栄養教育 2-③ 実地指導に対する評価と今後の課題 指導をビデオで確認し、評価・考察を行う。
授業計画 【第12回】	幼児期の栄養管理と栄養教育 食物アレルギー 除去食療法の基本について理解する。 個別栄養教育の実践。
授業計画 【第13回】	食品と医薬品の相互作用 経静脈栄養補給法 経管栄養補給法 食品と医薬品の相互作用について理解する。経静脈栄養について理解する。
授業計画 【第14回】	栄養ケアマネジメントのまとめ ① 症例別マニュアルの作成 症例について栄養ケアマネジメントの形式にそってまとめる。
授業計画 【第15回】	栄養ケアマネジメントのまとめ ② 症例発表 グループ毎に発表し、評価する。
授業の到達目標	臨床栄養領域のメディカルスタッフとしてチーム医療に参画し、専門職としてそれぞれの施設での傷病者に対し、 症例を通して適切な栄養管理や教育を実施するための栄養計画の立案・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解する。 栄養評価・判定、栄養補給、食品と医薬品の相互作用について理解し実践することが出来る ロールプレイで、傷病者・指導者のそれぞれの立場や社会的背景を理解する。模擬患者への栄養教育によりコミュニケーションのとり方を学ぶ。 発表によりプレゼンテーション力をつける。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	からだと疾病 I・IIの復習をし、予習とする。(1時間) 基礎栄養学の復習をし、予習とする。(1時間) 臨床栄養学 I・IIの復習をし、予習とする。(1時間)
授業時間外学習【復習】	実習で学んだ事・課題についてレポート作成する。(3時間)
課題に対する フィードバック	各実施回毎のレポート提出。点検後、再提出がある場合は書き直させる。発表に関しては、各班毎に学生同志でディスカッションを行い講評、全体総評を行う。
評価方法・基準	学習態度 20点 発表内容 20点 レポート 60点
テキスト	臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理 中村富子テキスト ほか 建帛社 必要に応じて資料を配付する。
参考書	授業の中で随時紹介する。
備考	